

事業名：1 養殖漁業研究事業
 細事業名：(3) 魚病対策事業
 期間：H18年度～
 予算額：2,940千円（うち国庫1,008千円）
 担当：養殖・漁場環境室（大里 純）
 目的：

養殖魚の魚病による漁業被害低減のために予防対策、魚病検査、魚病の蔓延防止を行うことで養殖生産の安定化を図る。

成果の要約：

1 事業内容

(1) 魚病の防疫に関する情報収集

魚病に関する全国会議や地方ブロック会議へ参加し、魚病の防疫に関する情報収集を行う。

(2) 養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導

魚病の検査や、養殖場の巡回を行い、適正な養殖を推進し、食の安全を守るとともに、病気の蔓延などを防止する。

(3) 種苗生産魚・中間育成魚・養殖魚・天然魚に発生する問題となっている疾病対策

県内で問題となっている疾病について調査、研究を行い、蔓延状況を把握や対策を講じる。

(4) 大規模沖合養殖システム実用化研究への参画

新日鉄住金エンジニアリング株式会社が研究代表機関となって、農林水産省の補助事業「知」の集積と活用のもとによる研究開発モデル事業に「大規模沖合養殖システム実用化研究」を提案するために組成した産学官連携のコンソーシアムに弓ヶ浜水産株式会社、鳥取環境大学、米子工業高等専門学校などとともに参画した。提案した「大規模沖合養殖システム実用化研究」は採択され、当センターはコンソーシアムのメンバーと共同研究契約を締結した。

2 結果の概要

(1) 魚病の防疫に関する情報収集

魚病の防疫に関する情報収集のため、会議に参加した。参加した会議を表1に示した。

表1 H31年度参加会議

日付	会議名
6月12日, 13日	全国養鱒技術協議会魚病対策研究部会
10月22日, 23日	近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会, 魚類防疫士連絡

	協議会
10月30日, 31日	西部日本海ブロック魚病対策協議会
12月11日, 12日	魚病症例研究会, 魚病部会

(2) 養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導

H31年度の巡回件数は35回であった。うち、魚病対応は22件であった。その他の魚病対応も含めると、魚病診断件数は合計で40件であった（表2）。

近年は新たなサケ・マス養殖業者の参入などがあり、サケ・マスの生産量の増大に伴い、サケ・マスの魚病診断件数が増加している。今後はこれまでに見られなかったサケ・マスの疾病が発生することも考えられる。

(3) 種苗生産魚・中間育成魚・養殖魚・天然魚に発生する問題となっている疾病対策

内水面ではギンザケ、イワナでせっそう病が発生した。フロルフェニコールの投与により、対処した。

海面ではマサバにおいて、連鎖球菌症、アミルウージニウム症が発生した。前者に対しては、エリスロマイシン等の投与により対処するよう指導。後者に対しては、銅ウールの設置により対処した。

(4) 大規模沖合養殖システム実用化研究への参画

H31年度は、定例会等に延べ9回出席するなどして、研究の進行にかかる情報交換等を行った。

成果の活用：

魚病被害の軽減及び蔓延防止を図った。

表2 H31年度疾病診断状況

内水面				
区分	魚種	病名	診断件数計	
養殖	ギンザケ	細菌性鰓病	4	
		細菌性鰓病+エロモナス症	1	
		せっそう病+エロモナス症	1	
		不明	4	
	ヤマメ	せっそう病	2	
	イワナ	細菌性鰓病	1	
		サルミンコラ症	2	
ホンモロコ	水カビ+ギロダクチルス	1		
天然池	コノシロ	不明	2	
天然河川	アユ	冷水病	1	
	ニシキゴイ	不明（KHV検査陰性）	1	
（計）			20	
海面				
区分	魚種	病名	診断件数計	
養殖	ウマヅラハギ	アミルウージニウム	1	
		不明	1	
	ニジマス	IHN+冷水病	1	
		不明	2	
	ヒラメ（稚魚）	スクーチカ症	1	
	ヒラメ	エドワジェラ症（E.タルダ）	1	
	マサバ	アミルウージニウム	1	
		レンサ球菌症	2	
			不明	9
	試験飼育	ギンザケ	ピブリオ（※）	1
※Vibrio splendidus ないしその近縁種			20	